

学園構想の推進に向けて

令和4年2月7日

加西市教育委員会

小学校の再編案の概念図

教育理念 「郷土を愛し
豊かに未来を拓く 人づくり」

加西STEAM

方策Ⅱ 小規模校を
存続しながら課題を解消

(中学校の場合は方策Ⅰ 学校の統廃合)

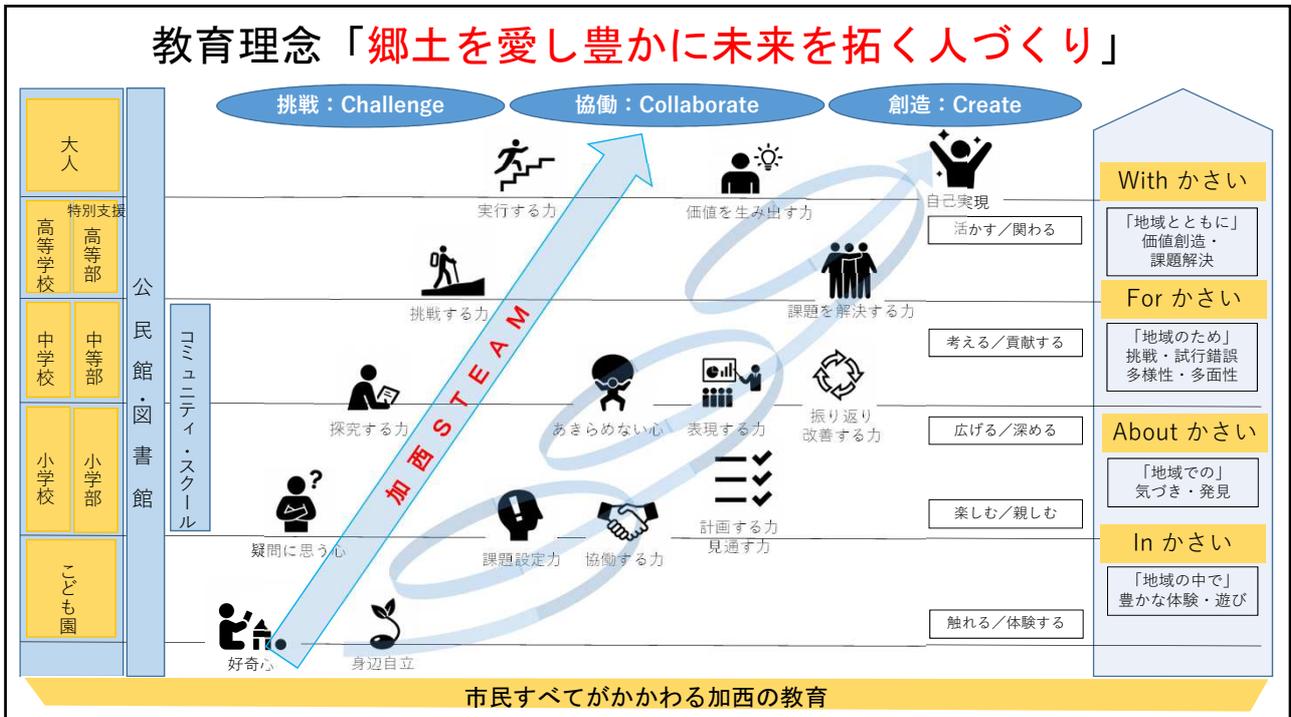
学園構想

中学校の場合は2校再編案)

1. 加西STEAMを進めていくには

(1) 加西STEAMとは

加西市では、人生100年時代を生きる教育の視点にたち、独自にSTEAM教育を導入し、教科横断的な学習や探究的な学習等を充実させることで、一人ひとりの子どもたちの資質・能力を引き出し、誰ひとり取り残さない、3C(挑戦・協働・創造)の資質・能力を身につけた次世代型人材の育成をめざします。



(2) STEAMの「A」の意義

STEAMの「A」は、芸術、文化だけでなく生活、経済、政治、倫理などを含めた広い範囲で定義し、推進することが重要です。

これは従来の「閉ざされた学校」の中では実現することができません。

(3) 授業コーディネーターの配置

より広く社会に「教師」を求め、最前線で課題解決に取り組む地域の大人の姿や、最新の技術を駆使し、高い志と倫理をもって、未来を志向する地域の企業に学ぶことは子どもたちの大きな経験となります。

そのためには、子どもへのきめ細かな対応と、各学校、各学科の特質に応じた地域との連携が必要です。その調整を行うコーディネーターを学校に配置することが不可欠です。

(4) ICT支援員が足りない

これからの時代を担う児童生徒を育成するには、ICT支援員の存在は不可欠です。加西市ではデジタルツールを活用したクリエイティブな学びを実現するために、現在5名のICT支援員を配置していますが、小中学校の数に比べてまだまだ足りていない状況です。

教職員のみならず、発想を広げて企業や地域からも広く人材を求め、ICT支援員の層を拡幅しなければなりません。

(5) 教員研修とデジタル環境の整備

最新の技術を駆使し、高い志と倫理をもって、未来を志向する地域の企業や大人の姿に触れさせ、そこから子どもたちの探究的な学びにつながるように、ICTの活用も含めた教職員の研修、研究活動が必要です。また、通信機器等のデジタル環境の整備も必要です。

2. 小規模校について教職員が課題と考えること

(1) 教職員が小規模校の児童について課題と考えること

- ・ 多様な価値に触れる機会が少ない
- ・ 人間(交遊)関係の固定化、崩れてしまうと行き場がない
- ・ 変化のチャンスが少ない
- ・ 人との出会いが少ない → いろんな自分を発見する機会がない
- ・ コミュニケーション能力、ソーシャルスキルが育たない

(つづき)

- ・ 行事や学習内容の単調化
- ・ 刺激の不足、視野が広がらない、見える世界が狭い
- ・ 少人数すぎてクラス遊び、体育、音楽ができない
- ・ 集団の中で得られるものが得られない

(折り合いをつける、競争心、主体性、人数に揉まれて遅くなる等)

- ・ 単学級では、クラスになじめない子の居場所がなくなる

(2022/1/18 教職員意見交換会)

3. 小小連携・ICT活用を進める上での課題

(1) 小小連携について教職員が課題と考えること

- ・ 移動や準備に時間や手間がかかる
- ・ 学校と外部との連絡調整、交渉等の負担軽減
- ・ 各校に同様にある仕事量をどう軽減させるか
- ・ 校務分掌の一本化、学校行事の見直し

(2) ICT活用について教職員が課題と考えること

- ・ ICT支援員の増員、常駐を希望すること
- ・ 通信ネットワークの環境整備 (2022/1/18 教職員意見交換会)

4. 学園構想の推進に向けて

(1) 地域の特性を理解し、地域と協働するとともに、STEAM教育を推進することで、各小学校の特色や個性を活性化。

- ・ STEAM教育によって、教科横断的な学習に挑戦し、地域の企業や大人との関わりの中で、子どもたちの目と心を見開かせる取組を行う。
- ・ 学園ごとに専任コーディネーターを配置し、地域の企業や公民館等の公共施設との交渉を教職員に代わって行う。
- ・ 学園内の校務分掌を整理する。
- ・ 教科担任制度の導入を図る。
- ・ 国県、大学等と連携してSTEAM教育の共同研究を行う。

(2) 学園内の小小連携をより推進し、学校間の共同授業や学校施設の共同利用など小規模校の課題を解消。

- ・ 学園単位で時間割等を見直し、常時集まれる環境を整える。
- ・ 小小連携を推進する組織体制をつくる。
- ・ 協同学習ができるカリキュラムを作成する。
- ・ 学校間を移動するバス送迎を行う。
- ・ 長期間の滞在型交流、合同給食の実施、低中高の学年別交流。
- ・ 学校間の連絡係となるコーディネーターを配置する。
- ・ 環境体験学習等、学校行事の合同化、行事全般の見直しを図る。

(3) ICTの活用によって、個々が持つ能力を最大限に引出しのばす教育や、個別最適な学びを実現。

- ・ 学校間を常時ネットワーク接続し、授業のみならず日常の子どもとのコミュニケーションにも活用する。
- ・ ICT知識に長けた専門家を各学校に常時配置し、リモート授業等の準備に当たる。
- ・ 通信回線の強化、施設備品等の環境改善を図る。